

授業改善推進中期プラン 国語〔小学校第6学年〕

昭島市立玉川小学校

学年等		項 目	内 容
令和 5 年度 第 4 学 年	令和 5 年 10 月	学習に関する児童の実態・課題	▲漢字の学習に意欲的に取り組んでいるが、文章の中で既習漢字を使用することにやや課題がある。 ▲友達の話聞くこと、メモを取って理解する力が弱い。（話す聞くのテスト平均75点。東京都調査「他の人の話を聞くときは、メモを取って理解するようにしている。」肯定的回答49％） ▲説明文の読み取りに課題がある。説明文の文章構成の理解を苦手とする児童が多い。書いてある事柄や筆者の考えを読み解くことが苦手な児童がいる。（東京都学習意欲調査「文章を理解できるように、大切だと思った部分や疑問に思った部分に線を引きながら読んでいる」肯定的解答57％） ▲東京都学習意欲調査「文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している。」肯定的回答61％ ○東京都学習意欲調査で、「国語の授業の内容が分かる」の肯定的回答が90％以上。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	・授業や作文で既習漢字を積極的に使う力。 ・友達や人の話をメモ等を取りながら聞き、理解する力。 ・説明文を正しく読み取る力、文章構成や段落相互の関係（話題提示と答えの関係、原因と結果の関係）に気を付けながら、説明文を読み取る力。 ・自分の考えに人に伝えることができる力。 ・自分の課題を把握し、課題に対して主体的に学習に取り組む力。
		具体的な授業改善の方策	・テストやドリルで間違えた漢字を自分で選び、練習するよう指導する。 ・漢字の部首の意味も考えながら覚えらるよう指導する。 ・友達や人の話をメモを取りながら指導する。 ・文章の中で、大切だと思った部分や疑問に思った部分に線を引きながら読む指導を行う。 ・タブレットを活用し他者と互いの書いた文章を読み合う時間を作り、意見を交流させる。 ・タブレットを活用した「振り返りシート」を単元の最後に記入させることにより、自分の課題を捉え、その課題に対して取り組むことができたか、自身の学習を振り返られるようにする。
		第4学年における児童の達成度と第5学年に向けての課題	「聞くこと・話すこと」「読むこと」はおおむね全国平均に近い数値であるが、「漢字」と「言葉」に関する学習が全国平均を大きく下回っている。日々家庭学習で課題を出し、繰り返し取り組むことが必要である。また、言語文化に慣れ親しむため、辞書を使って言葉を調べたり、分からない言葉を分からないままにするのではなく全体に発信していきみんなで共有したりしながら身に付けさせることを意識した学習を心がけていく必要がある。
令和 6 年度 第 5 学 年	令和 6 年 10 月	学習に関する児童の実態・課題	▲当該学年の前の学年までに配当されている漢字を文章の中で正しく使うことができない児童が多い。 ▲文章を書き、全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることが苦手な児童が多い。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	・主語や述語などを整え、文意が正しく伝わる文章を書く力。 ・書かれた文章の大事な部分に気付いて読む力。 ・漢字のおもしろさや有用性に気づき、漢字を覚える力。
		具体的な授業改善の方策	・漢字の使い方に興味をもてるように、漢字ドリルを活用して漢字を紹介する。テストを計画的に行い、習熟度を確認する。 ・文章を書く機会や友達が書いた文章に触れる機会を増やし、お互いにアドバイスや感想を必ず発言できるようにする。 ・ICT機器の活用や読み聞かせなど、様々な方法で文章に親しみをもてるようにする。
		第5学年における児童の達成度と第6学年に向けての課題	
令和 7 年度 第 6 学 年	令和 7 年 10 月	学習に関する児童の実態・課題	・「話すこと・聞くこと」 ○自分の考えを持ち、まとめることができる。 ▲最後まで相手の話を聞くことに課題がある。 ・「書くこと」 ○事象を説明する文章を書くことができる。 ▲自分の考えを文章に端的にまとめることに課題がある。また漢字の書き取りに苦手意識をもっている児童が多い。 ・「読むこと」 ○登場人物の相互関係や心情などについて、描写を捉えることができる。 ▲中心となる語や文を見付け、文章を要約する力に課題がある。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	・学年配当の漢字を正しく読み、使える力。 ・大事なことを捉えて読む力、話を聞く力。 ・調べた結果を基に自分の考えを文章を書く能力。 ・文章を適切に区切り、接続詞などを用いて伝えたいことをより分かりやすく書く力。
		具体的な授業改善の方策	・深く読み取るために、説明文では言葉の意味を正確に調べ、筆者の主張と具体例を明確にさせ自分の考えをもたせる。物語文では登場人物の心情や関係性を捉え、テーマを明確にさせる。 ・5W1Hを意識させて、詳しく、具体的に書くようにさせる。 ・言葉の意味や正しい漢字が書けるように辞書を活用させる。 ・玉川タイム10分間チャレンジ（読むこと・話すこと聞くこと・書くこと）を活用してバランスよく読み解く力を付ける。
		小学校6年間のまとめと中学校への引継事項	

令和

7

年度 第6学年児童（黄色のセルに第6学年時の年度を記入してください）

授業改善推進中期プラン 算数〔小学校第6学年〕

昭島市立玉川小学校

学年等		項 目	内 容
令和 5 年度 第 4 学 年	令和 5 年 10 月	学習に関する児童の実態・課題	▲わり算の筆算(3位数÷2位数、3位数÷3位数)の仕方を理解していない児童が複数いる。 ▲「確実に分かるようになるまで繰り返し練習している」の肯定的解答67%で他学年に比べて低い。 ▲「教科書やノートを読み返すなどして、授業で学習したことを振り返るようにしている。」の肯定的回答が他学年に比べ低い。 ▲「どうやったらうまくいくかを考えてから学習を始めるようにしている」が60%で他学年に比べて低い。 ▲上位層と下位層の学力差が顕著である。 ○東京都学習意欲調査で、「算数の授業の内容が分かる」の肯定的回答90%以上だった。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	・わり算の筆算の仕方を正しく理解し、正確に筆算する力。 ・確実に分かるようになるまで、繰り返し練習する力。 ・教科書やノートを読み返し、学習したことを振り返る力。 ・課題に取り組む前に既習事項を使い、考えてから学習に取りかかる力。 ・下位層児童の基礎学力の底上げを図る。 ・自分の課題を把握し、課題に対して主体的に学習に取り組む力。
		具体的な授業改善の方策	・わり算の筆算を朝学習や宿題などで繰り返し学習させる。 ・テストやドリルでまちがえたときは、似た問題を選んで、特に練習させる。 ・毎時間の授業の導入で、前時の復習を行い知識の定着を図る。 ・課題に取り組む前に既習事項を想起させる授業展開を行う。 ・少人数指導で単元や学習内容に応じて習熟度別分割での指導、支援員を活用した複数体制の指導を行い、個人差を考慮した指導を行う。 ・主体的に取り組む授業づくり、分かる授業づくりを行う。
	年度末	第4学年における児童の達成度と第5学年に向けての課題	「数と計算」「量と測定」「数量関係」は、4月の当初に比べ全国平均値に近い得点がとれるようになってきた。図形が大幅に低下してしまっ。5年生に向けて、分度器やコンパスを正しく操作したり、練習問題を定期的に行ったり、家庭学習で取り組んだりしながら定着させる必要がある。
令和 6 年度 第 5 学 年	令和 6 年 10 月	学習に関する児童の実態・課題	▲単位間違いが多い。 ▲手順の多い計算での間違いがある。 ▲文章問題における立式、考えの説明が苦手な児童が多い。 ▲算数に対する苦手意識が強く、進んで問題に取り組めない児童がいる。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	・丁寧に計算したり、確実に単位換算できる力。 ・文章の場面を正しく理解するために、図や数直線を活用する力。 ・粘り強く問題に取り組もうとする力。
		具体的な授業改善の方策	・思考力、判断力、表現力等を向上するために、玉川タイムを活用して、計算、文章問題解決プリントに取り組む。 ・問題場面を図に表して考えさせるようにすることで、問題解決のプロセスを説明できるようにする。
	年度末	第5学年における児童の達成度と第6学年に向けての課題	
令和 7 年度 第 6 学 年	令和 7 年 10 月	学習に関する児童の実態・課題	○よさ ・棒グラフから項目間の関係を読み取ることについては、95.2%の児童が正しく回答することができた。 ▲課題 ・基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題の正答率が23.5%であった。場面の数量の関係を的確に捉えて(解釈して)立式し、問題解決を図り、数学的に説明することに課題がある。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	・事象の変化と数量の関係を把握する力。
		具体的な授業改善の方策	問題解決的な学習過程に即して数学的活動を取り入れた授業展開を行う。 例) ①二つの数量や事象の間の依存関係を考察し、ある数量が他のどのような数量と関係付けられるのか明らかにする。 ②伴って変わる二つの数量について対応や変化の特徴を明らかにする。 ③二つの数量の間の関係や変化の特徴を問題解決において活用する。
	年度末	小学校6年間のまとめと中学校への引継事項	